



# 「江戸から東京へ」通信 第2号

平成23年11月4日 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

## 教科書「江戸から東京へ」のアンケート調査を実施しました

教科書『江戸から東京へ』（平成23年度版）については、本年4月に都立高校の全ての教員・生徒に配布し、各学校の状況を踏まえて授業等での様々な活用をお願いしてきたところです。これまでに、平成23年度の必修化協力校を中心に、授業実践・校外学習での活用・夏季休業中等の課題としての活用事例が寄せられています。

9月には、こうした活用を踏まえて、教科書についてのアンケート調査を実施しました。2学期を迎え、学校行事等で忙しい中、多くの先生方や生徒・保護者の皆さんに御協力いただき、ありがとうございました。今後、その結果や頂いた御意見を集計、分析し、教科書の改訂作業等にいかしていきます。

なお、10月以降に活用を予定している学校には12月22日（木）までにアンケート実施と結果の提出をお願いしています。すでに提出済みの場合においてもその後、御意見などがありましたら是非お寄せください。

## 東京都江戸東京博物館との連携

東京都江戸東京博物館では、都立高校等での『江戸から東京へ』の実施に当たり「当面できる協力事項」として次のような協力体制が整えられています。

- ①**入館料の免除**：『江戸から東京へ』の授業の一環として常設展を利用した場合、事前申請により引率教員と生徒の入館料が無料になります。事前申請の手続等、詳細は東京都江戸東京博物館のHP (<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/order/group/index.html>) を御覧ください。
- ②**説明会の依頼**：『江戸から東京へ』の教材研究や資料収集を目的として、常設展の内容に関する教員向けの説明会を依頼することができます。
- ③**ワークシートの開発**：教科書『江戸から東京へ』の内容とリンクした、江戸東京博物館を見学する際に活用できるオリジナルのワークシートが開発されます（出来上がったワークシートは順次江戸博HPにアップされる予定です）。
- ④**ボランティアによる常設展示ガイドツアー**：教員向け・生徒向けのどちらでも可能なツアーで、一回に最大50人程度まで実施が可能です（事前予約と展示事業係との相談が必要）。

★東京都江戸東京博物館への各種問合せは総合案内（電話番号：03-3626-9974）を通して、担当部署へお願いします。①は団体見学担当、②は展示事業係、④は展示事業係及びボランティア事務局まで

★午前9時30分～午後5時30分（土曜日は午後7時30分まで）  
入館は閉館の30分前まで

★休館日：毎週月曜日（月曜が祝日・振替休日の場合はその翌日）

★JR総武線 両国駅西口下車 徒歩3分  
都営地下鉄大江戸線 両国駅下車 徒歩1分



# 協力校の実践から



女屋先生の授業の様子



## 都立練馬工業高等学校での実践

練馬工業高校は今年度唯一の教育課程特例校として『江戸から東京へ』を1学年全クラスで実施しています。(教育課程特例校=必履修の世界史に加え『江戸から東京へ』を履修することにより、地理歴史科の必履修要件を満たすことのできる特例が認められた学校)

授業を担当する女屋<sup>おなや</sup>隆充主任教諭は、この日「5-(1) 赤穂浪士の討ち入りと飛鳥山の花見」(教科書P26～P27)の授業を行いました。

最初に本日の授業のねらいを示し、「教科書を読ませ、板書をし、プリントの穴埋めをして、解説をする」という講義とプリントを組み合わせたオーソドックスな授業展開でした。

授業途中で集中力がなくなってきた生徒、漢字の苦手な生徒に対して、発問したり、励したり、適宜注意を引き付けながら、授業を的確に進めていました。

なお、「学びの窓」の「赤穂浪士の討ち入り」は生徒になじみが薄い題材のため、授業の最後に活用するなどの工夫が図られました。

授業後に、女屋主任教諭からは、「画像を活用するためのデジタルコンテンツや典型的なワークシートや授業ノートが必要である。」「江戸時代の時間や度量衡などに関するオーソドックスな資料がほしい。」など具体的な要望が出されました。

また、1学年の校外学習は『江戸から東京へ』を活用して行うとのことでした。

別のクラスを担当する蛇石<sup>へびいし</sup>久美子教諭は「3-(2)銀座でお金をつくっていた」(教科書P18～P19)の授業を行いました。

蛇石教諭は、最初に本日の授業のねらいを示し、机を向かい合わせにさせて班別学習と作業学習を組み合わせ、40分間行い、最後に机を元に戻して10分間講義形式で授業のまとめを行いました。

作業学習では「学びの窓」を踏まえ、プリントと日本橋地区の現在の地図と古地図を配布し、地名や建物を読み取らせ、現在と過去の地理的な認識の育成を図りました。

「学びの窓」の銀座絵巻の絵から読み取れることを、班毎に考えさせ、その答えを黒板に書かせたのち、最後に、プリントを使いながら、金貨、銀貨、銭貨の三貨や、三貨の普及の意味について説明しました。生徒は作業や質問に対する答えを考えるなど常に活動しており、教師と生徒の双方向型の授業展開となっていました。

授業後に、蛇石教諭からは「指導書、デジタルコンテンツには、現在につながるエピソードや地理的要素のワークシート、ゲーム感覚で取り組める4択問題等を取り入れて充実を図って欲しい。」との意見がありました。また、「三越を知らない等、知識の全くない生徒に対しては、古地図ソフトを購入して、自分で教材を作成する工夫が必要で、その点の苦労はある。」とのことでした。



蛇石先生と生徒の班別学習の様子

## 都立小岩高等学校での実践



小岩高校では3学年の自由選択科目として『江戸から東京へ』（2単位）を設置しています。担当する星野君江教諭は、日本史を受験科目とする生徒にも対応できるように、オリジナルの問題プリントに取り組み、作業的要素を取り入れた授業を展開していました。この日は「江戸幕府の滅亡から明治新政府の発足」（教科書『江戸から東京へ』P50～P55に相当する部分）の授業でしたが、問題プリントに取り組む生徒に机間指導をしながら個別にアドバイスをを行うとともに、簡潔で正確な用語解説が印象的な授業でした。



星野先生の授業の様子

講座開設時は受験対応レベルを想定していたそうですが、必修化協力校として開設した科目ということで、様々な生徒を受け入れた結果、履修している生徒の学力やモチベーションに非常に幅がある点に難しさがあるとのことでした。

授業後に、星野教諭からは、「独自科目やこの教科書のコンセプトは面白いと思う。『総合的な学習の時間』での教養講座的な授業としては魅力を感じる。」「この教科書の特徴を生かして教材準備や調査をすることが苦手な先生もいると思うので、ワークシート等があると便利である。」「受験対応を考えた場合に補足が必要になる。」等の意見がありました。

これまでに平成23年度必修化協力校3校5人の先生方の授業実践を紹介しました。教科書のいかし方、身近な史跡や地理的視点の活用方法等を具体的に伝えるために、今後はそれぞれの先生方が作成されたプリント教材や資料等も紹介していきたいと考えます。

今回は、必修化協力校の都立永山高校と都立足立東高校、さらに協力校以外から都立町田工業高校での取組を紹介します。また、教科書アンケートで寄せられた様々な活用方法についてもお伝えする予定です。

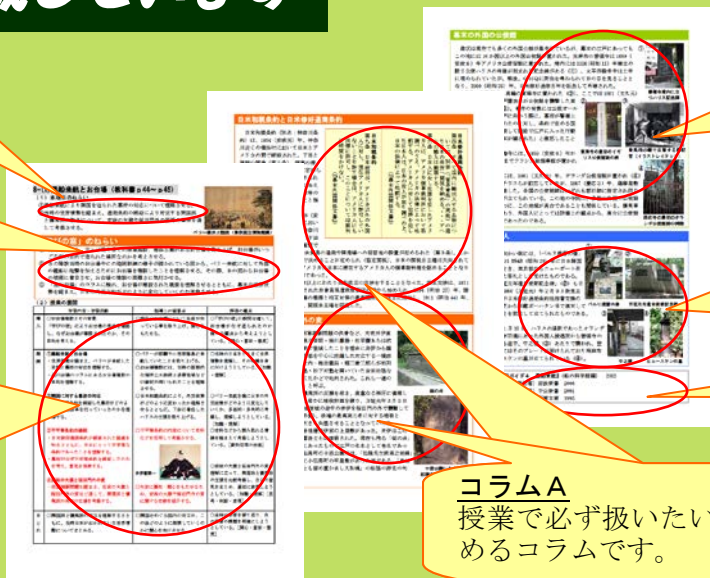
## 指導書を作成しています

★四つのコラムはA・B・Cの三種類で構成されます。

各項目のねらいを明確にしています。

学びの窓のねらい、活用方法を示しています。

授業指導案には、各項目(1)・(2)を1単位で実施する場合に必ず扱いたい内容を赤字で示しています。



**コラムB**  
各項目に関連する様々な内容のコラムです。

**コラムC**  
各項目に関連する史跡等を紹介するコラムです。

参考図書を紹介します。

**コラムA**  
授業で必ず扱いたい内容の理解を深めるコラムです。